

人権尊重社会の実現をめざして ハンセン病を正しく理解しましょう

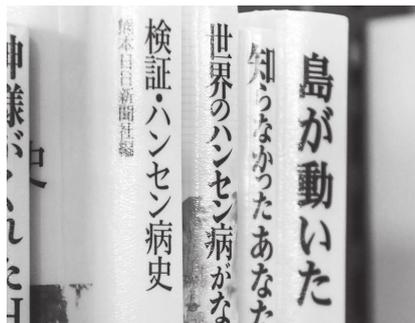
ハンセン病とは

古くから世界各地に存在し、日本でも日本書紀にあるほど古くから知られた病気です。1873年ノルウエーのハンセン医師が原因となる「らい菌」を発見し、それからハンセン病と呼ばれるようになりまし

た。ハンセン病は感染力のきわめて弱い病原菌による病気です。手足などの末梢神経が麻痺し、皮膚感覚が無くなり皮膚に変化が起こります。現代は、有効な治療薬により完治し、感染も発病もほぼありません。

ハンセン病への差別の歴史

治療法がなかった時代には、体の一部が変形するといった後遺症が残ることがありました。そ



▲市立図書館にはハンセン病に関する蔵書があります。一度、読んでみてはいかがでしょうか。

して、「恐ろしい病気」と考えられ、差別の対象になりました。1907年(明治40)の「らい予防に関する件」、後の「らい予防法(昭和28)」によって、強制的に隔離する政策が続きました。昭和30年代に治療薬が開発され、ハンセン病に対するそれまでの認識の誤りが明白になりました。それでも、1996年(平成8)「らい予防法の廃止に関する法律」が成立するまでこの隔離政策が続くのです。2001年(平成13)国が政策の誤りを認め、患者・回復者に謝罪しました。また、ハンセン病家族補償法も昨年11月に施行されました。

しかし、社会からの偏見や差別は今だに根強く、家族に迷惑が及ぶことを心配して現在も故郷に帰ることなく肉親との再会が果たせない人がいるのが現状です。

これから私たちにできること

ハンセン病患者の方々は、耐え難い苦痛と苦難の年月の末、やっと名誉の回復と福祉の場に至ることができました。私たちは、ハンセン病への正しい知識と意識を持ち、偏見と差別をなくす第一歩を共に歩みたいと思います。

安来市加納美術館では、市内在住のキルト作家内藤和美さんと仲間の「手仕事」を紹介する展示を開催しています。キルトに魅せられて40年。内藤さんは、キルトの素晴らしさを多くの人に伝えたいと願い、仲間と一緒にひと針ひと針愛情を込めて作品を作ってきました。

会場には、ステンドグラスキルトやトラディショナルキルト、ハワイアンキルトなどさまざまなキルトが並んでいます。中でも、江戸時代の広瀬紉を使った作品が注目されています。作品を通して安来の伝統文化に触れていただければ幸いです。

今回の展示では、会期中に一

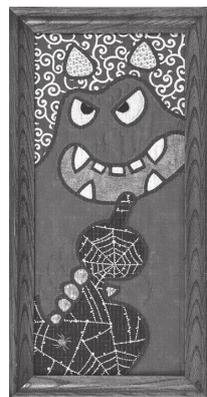


仲良し三人組 (2016年)

「内藤和美 仲間と夢見るキルトの世界」 好評開催中です

安来市加納美術館だより 電話 36-0880

部作品を入れ替えます。



お家の魔除け鬼 (1995年)

《会期》 4月6日(月)～
【前期】 2月17日(月)15時まで
【後期】 2月19日(水)～4月6日(月)。毎週火曜日は休館(祝日の場合は翌日)です。

作家による ギャラリートーク

▼2月2日(日)・23日(日)..
全て13時30分～15時

内藤和美さんがご自身と仲間の作品について楽しく解説します(要入場料)。

作家によるワークショップ

▼2月2日(日)10時～12時

お洒落なポーチ作り

内藤和美さんと一緒に可愛らしい「作品」作りをしてみませんか。初めての人でも楽しく作れます(要事前予約)。
1000円、定員20人。

